

# 改良型 BRD とルーブリック 評価を活用した授業方法の 提案

井勝 久喜

吉備国際大学・社会科学部・経営社会学科

学生が自ら知識を身につけ、その知識を活用する力を身につける授業として、BRD とルーブリック評価を活用した授業を実施した。BRD 法は、授業の時間内に受講生にレポートを書かせる授業である。この方法により、学生が集中して授業に取り組み、教科に対する知識が深まることが明らかとなった。また、ルーブリックを用いてレポートを評価することから、学生がレポートの改善点を理解することができ、学生のやる気が出るということが明らかとなった。さらに、ルーブリック評価により採点に対する学生からの信頼が得られることが明らかとなった。

キーワード:BRD、当日レポート、参加型学習、ルーブリック、レポート評価

## 1. 緒言

大学の授業において、教員が学生に一方的に情報を伝達する講義法が用いられてきたが、単調で一方的な情報提供になりやすく、学生は受け身になってしまうことから、私語、居眠り、遅刻などの弊害が指摘されている。さらに、学生の学習能力の多様化が進んだことにより、一方的な講義では全く授業についていけない学生が出るなど、講義の弊害が大きくなっている。

このような状況から、講義法に変わる教育方法として、学生参加型の学習方法が取り入れられるようになってきた。学生参加型の授業方法には、共同学習法<sup>1)</sup>、三方向授業<sup>2)</sup>、当日ブリーフレポート授業 (BRD)<sup>3)</sup>、PBL 学習法<sup>4)</sup>、LTD 話し合い学習法<sup>5)</sup>、分節化授業<sup>3)</sup>、橋本メソッド<sup>6)</sup> などがある。また、それぞれの方法では、ディスカッション、ダイアログ、ディベート、KJ 法などの各種グループワークの手法が

取り入れている。

今回は、講義の時間内に受講生にレポートを書かせる BRD とレポートの評価にルーブリック評価を取り入れた授業を行い、その学習効果について検証したので報告する。

## 2. 授業方法

### 2-1. BRD (Brief report of the Day) 授業

BRD 授業は、授業の時間内に受講生にレポートを書かせる授業である。BRD では、表 1 に示した手順で授業を進める。

BRD では授業の準備段階が非常に重要である。受講生に身につけてもらいたい知識が記載された資料 (論文等) を準備し、適切なテーマを設定することが不可欠である。授業準備を失敗すると授業の効果が得られない。

授業の 90 分は次の 4 つの段階をで進行する。なお、資料は前週に配付しておき予習をさせておく。

- (1) テーマの確認: 教員がテーマを板書する。
- (2) 構想: レポート用紙を配布し 15 分間の考慮・構想時間を与える。この時間で、受講生はテーマに沿って資料を読み込み、レポートの構想を練る。この時間は、授業内の「予習」でもある。関連する知識の活性化をはかり、学習へ動機づける機会となっている。
- (3) 情報収集: 教員は通常の講義と同じように説明を行う。講義は板書、学生への発問、指名、教材提示など、必要に応じて自由に展開する。また、受講生同士が話し合う機会も設ける。
- (4) 執筆: 当日レポート(BRD)の執筆。教員はこの間、机間巡視し、質問があれば回答する。

表 1 BRD 授業の手順

段階		学生の学習活動
1. テーマの確認	5分	今日のテーマを確かめる
2. 構想	15分	資料を参照して、レポートの内容を考える
3. 情報収集	30分	・教員の講義を聞く ・受講生同士で話し合い ・疑問点を質問する
4. 執筆	40分	レポートを完成させ提出する

## 2-2. ルーブリック評価

この授業では受講生のレポート全てに細かくコメントを記入し、評価点を付けていたが、採点が主観的になること、評価基準が学生に伝えられないこと、時間がかかること、など多くの不都合が生じた。そこで、ルーブリックを使用して評価を行うこととした。

ルーブリック評価は学生の学習到達状況を評価するための評価基準のことである。今回は、「知識・理解」、「記載内容の適切性」、「文章表現」、「分量」の4つの評価項目について、到達レベルをA・B・Cの3段階で評価するルーブリック表を作成し評価した。また、一部はテーマ合わせたルーブリック表も作成した。

## 3. BRD 授業法の実践

BRD 授業法は、経営社会学科2年次生に開講されている「循環型社会論」で実施した。テキストは使用せず、毎回、テーマに関連した資料（論文等）を使用した。

この授業は「持続可能な資源利用を促進し、循環型社会の考え方の修得」をテーマとし、資源循環型社会における企業経営のあり方を理解できる能力を身につけることを目標として開講している。

BRD 授業法は、2014年度から実施しており、今年で4年目になる。成績は毎回のレポート70%、最終試験30%で評価している。

## 4. BRD 授業法の学習効果と課題

### 4-1. BRD 授業法の実施結果

BRD 授業の効果を検証するため、15回目の授業時にアンケート調査を行った。質問項目は以下の通りである。質問1：国籍、質問2：講義方式とBRD方式ではどちらが知識が身につくと感じたか、質問3：授業中はどの程度集中していたか、質問4：予習はしましたか、質問5：文章を読む力、理解する力は身に付きましたか、質問6：文書作成能力は身に付きましたか、質問7：循環型社会に関する知識は身に付きましたか、質問8：BRDの課題の難易度はどの程度でしたか、質問9：意見、感想を記入して下さい。なお、質問に対する回答は評価が低い場合を1として、1から6の6段階で評価してもらった。

回答した受講者は2014年度から2016年度の3年間の受講者は57名であり、日本人学生が31名、中国人学生が15名、韓国人学生が11名であった。なお、2017年度については発表時にデータを追加する。

「講義方式とBRD方式ではどちらが知識が身につくと感じたか」という質問に対する回答結果を図1に示した。国籍に関係なくほぼ同じ傾向を示し、BRD授業の方が身についたと感じている学生が多いことが明らかとなった。

6段階の評価のうち、5と6の回答数を合計して評価が高いとして算出した結果を図2に示した。その結果、「集中していた」と回答した受講生が6割を超えていた。また、「予習をしましたか」という質問への回答以外は4割以上の受講生がBRDは効果があると答えていた。なお、2割程度の受講生しか予習をしていないことは今後の課題である。日本人学生と日本人以外の学生を比較したが、違いは認められなかった。

一方、自由記述欄には「BRD方式は、学んだ知識を自分で整理してまとめることができるので、とても良い方法だと思う」、「資料を読んで

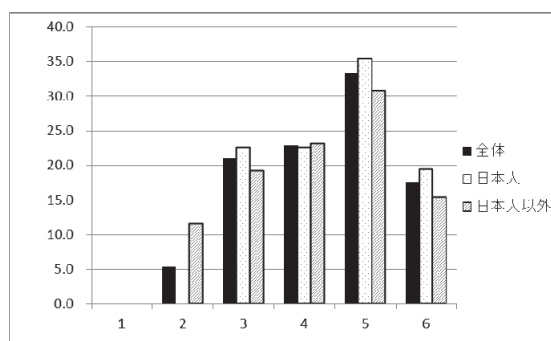


図1 講義とBRDはどちらか知識が身につくか

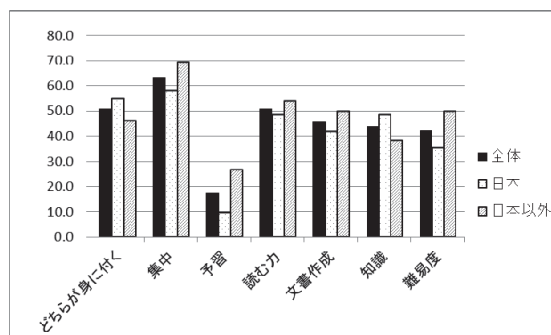


図2 各質問に対して5と6に回答した学生の割合

まとめることは難しく感じた」、講義を聞いてノートを取るだけよりも、BRD方式の方が集中できた」、「レポートに評価が付くのでやる気も起きた」など、肯定的な記述も多く、本学習方法は効果が高いことが示された。

#### 4-2. BRD とルーブリック評価の効果と課題

BRD とルーブリック評価を活用した授業の効果をまとめると以下のようなことが明らかとなった。

- ①BRD は授業の到達目標が当日レポートのテーマという形をとるため、受講生が学ぶ内容を理解しやすい。
- ②「書く」という作業により、受講生が主体的に取り組むことから、受講生は「授業に参加している」という実感を得やすい。
- ③受講生の反応がレポートとして集約されるため、教員は受講生の理解度を確かめることができる。
- ④受講生の集中度が上がり、私語や居眠りはほとんどない。
- ⑤90分を4段階にブロック化して進めるため、教員からの情報提示量が制限されるが、受講生は集中して学ぶことができる。
- ⑥ルーブリック評価により、評価基準が明確に示されることから、レポートの改善点が明らかとなり、学生のやる気が出る。
- ⑦ルーブリック評価により、客観性を保つことができるため、採点結果が受講生から信頼される。
- ⑧読む力、書く力を身につけることができる。
- ⑨極めて単純な手順であり、ワークショップの経験が無い教員でも活用できる。  
一方で、この授業を実施することにより、以下のような課題が明らかとなった。
- ①教授したい内容やレベルに完全に合致した資料を探すのが難しい。
- ②受講生に提示する資料とテーマを失敗すると、学びの質を保つことができないので、事前準備に時間と細心の注意が必要。
- ③予習をしてこなかった受講生は理解度が低くなる傾向がある。
- ④知識はあっても作文能力が低い受講生は点数が低くなる。
- ⑤ルーブリック評価表は作成に時間がかかる。

#### 5. 結語

大学では、知識を身につけることも必要であるが、それにもまして、知識を活用する知恵や学び方を身につけることが重要である。参加型学習は、能動的な知識の習得を目指しており、その過程で学生は、「創造的な思考や問題解決能力」、「自己管理能力」、「対人技能」、「コミュニケーション能力」など、多くの能力を身につけることができる。

しかしながら、授業で参加型学習を行う場合には、周到な事前準備を行う必要があるだけでなく、授業中もしっかりとファシリテーションを行わなければならない。参加型学習の経験が少ない教員にとっては大きな負担となるだけでなく、授業自体を失敗してしまう可能性がある。また、大人数の授業では、参加型学習を行うこと自体に困難を伴う。

今回実施したBRDとルーブリック評価を活用した授業は、きわめて単純な手順で受講生の参加を促すことができ、かつ学習効果が高い方法である。BRDとルーブリック評価を活用した授業は、参加型学習の経験が少ない教員でも取り入れることができ、大人数の授業でも行うことができる。また、受講生は授業科目に関する知識だけでなく、多くの能力を身につけることができる学習方法である。今後、多くの授業で取り入れられることを期待したい。

#### 参考文献

- 1) 「学生参加型の大学授業」D.W.ジョンソン 他、関田一彦訳；玉川大学出版部、2001年
- 2) 「大学授業を活性化する方法」杉江修治他；玉川大学出版部、2004年
- 3) 「大学講義の改革」宇田光；北大路書房、2005年
- 4) 「PBL 判断能力を高める主体的学習」ドナルドRウッズ、新道幸恵；医学書院、2001年
- 5) 「討論で学習を深めるには・LTD 話し合い学習法」J.レイボウ他；ナカニシヤ出版、1996年
- 6) 「学生と楽しむ大学教育」清水亮、橋本勝；ナカニシヤ出版、2013年

# 改良型BRDとルーブリック評価を活用した 授業方法の提案

吉備国際大学 社会科学部

経営社会学科 井 勝 久 喜

 Sustainable Society  
Phitsu Laboratory

## 提案の目的

参加型学習を実践し、学習効果を得るためには、  
教員に参加型学習に対する知識と技能が必要である。

BRDとルーブリック評価を活用した授業方法は、  
参加型学習の経験が少ない教員でも実施することが  
でき、かつ大人数授業でも活用することができる。  
また、この授業方法は受講生に知識だけでなく、自  
ら学ぶ力も身につけさせることができることが明らか  
となったので、多くの授業で活用していただき  
たいと思い、提案させていただきます。

 Sustainable Society  
Phitsu Laboratory

## 参加型学習の課題

- ★ 教員にファシリテーション能力が必要
- ★ 教員に参加型学習の知識と経験が必要
- ★ 授業準備に時間と労力が必要
- ★ 大人数授業での実施が難しい
- ★ 知識習得が必要な科目には向かない
- ★ 学生に敬遠される
- ★ 学生の質により状況が変化する
- ★ 学生の成績評価が難しい

## BRD授業

Brief Report of the Day (当日フリーレポート)

授業の冒頭で発表されたレポートのテーマについて、本や資料、教員への質問などを通して情報収集した後、授業時間内でレポートを執筆する。

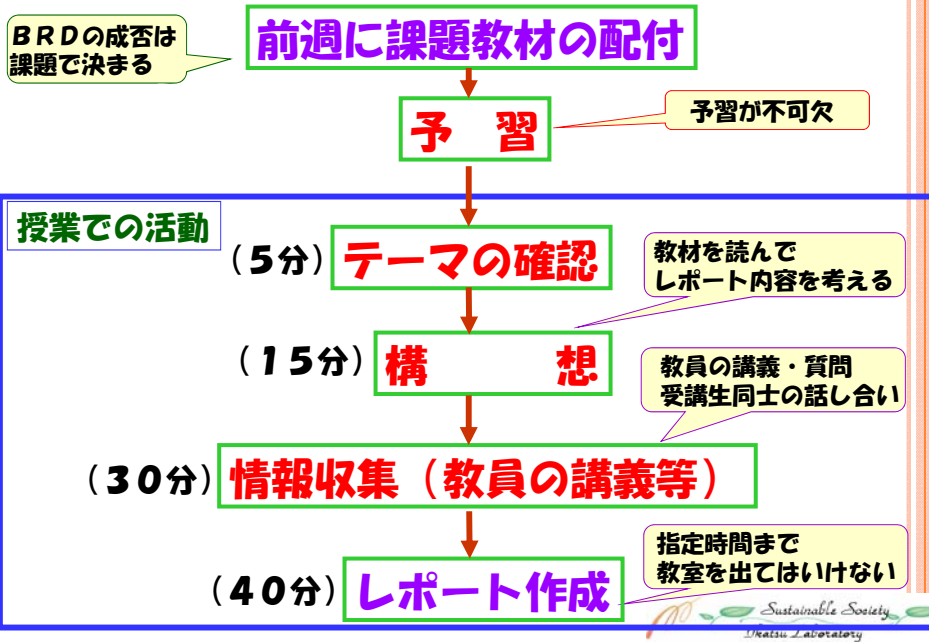
### BRD授業のねらい

- ① 講義の目標を明確にする (課題明示)
- ② 一斉授業の中に、個別学習の要素を位置づける (個別化)
- ③ 学生の声を汲み上げて授業に反映する (双方向性)
- ④ 説明時における情報伝達を円滑にする (私語抑制効果)
- ⑤ 当日の授業に出席する必要性を生み出す (出席促進効果)
- ⑥ 90分間を分節化して変化を付ける (ブロック化)
- ⑦ 限られた時間で一定量の文章をまとめる (文章力養成)
- ⑧ いつでも誰でもどこでも手軽に使える (実用性)

## BRD授業の実践

実践科目	: 循環型社会論
対象学年	: 2年
使用テキスト	: なし (資料・論文等配布)
学習課題	: 毎回課題資料を配布
受講者数	: 2014年度 14人
	: 2015年度 30人
	: 2016年度 17人
	: 2017年度 28人

## 改良型BRD授業の手順



# 循環型社会論レポートテーマ

## ④ BRDレポート課題

- 1 自然界の循環と人間社会の関係性について述べなさい
- 2 循環型社会を作るために必要な経済システムを考察しなさい
- 3 産業廃棄物を適正に処理するための政策を考えなさい
- 4 ペットボトルはリサイクルすべきかすべきでないか
- 5 枯渇性資源の今後について考察しなさい
- 6 再生可能エネルギーの今後の展望について論じなさい
- 7 ファクターXのメリットとデメリットについてまとめなさい
- 8 エコロジカルフットプリント指標の課題と展望
- 9 カーボンフットプリントを市民に認知してもらう方法の提案
- 10 論文「循環型社会形成推進基本計画への視点」の要約
- 11 リサイクル法制度の課題と課題解決策について論じなさい
- 12 サービサイジングの課題と展望
- 13 論文「持続可能社会と循環」の要約
- 14 あなたが考える「持続可能社会」を論じなさい
- 15 授業全体の振り返り



# 提出されたBRDレポート

題目フリーレポート

授業科目名	循環型社会論	提出日	2018年1月25日
学 科	経営社会 学科	学生番号	
学 年	2 年	氏 名	

題目：「持続可能社会と循環、豊か」

産業物問題の関心は議論は、この現象も  
 手不片断集約中心に議論されている。  
 しかし、産業物問題の背景には社会的背景も  
 あると思う。この産業物問題の背景は、社会的側面  
 として問題提起を再度要約していく。  
 産業物の根拠は「大量生産、大量消費」である。  
 人は、豊かに社会を自給する。大量生産、大量消費  
 を行い、この大量生産、大量消費を伴う生活  
 にはない。これを解決しようと、技術でやる。いろいろ  
 問題はある。そこで、豊かのため、ゼロエミッションの推進  
 である。これは、人間は唯一、産業物を生産する生物。人間は  
 豊かになるための人間社会を自然の物質循環の存在  
 である。産業物をゼロエミッションにする必要はない。  
 一、持続可能社会の存在が必要である。産業物の循環と  
 自然循環の自然循環の存在で解決していく。産業物を削減し、  
 自然の自然循環の存在によって、自然の自然循環の存在  
 である。地球規模で公平な世界中の生活すること  
 である。このことが持続可能社会と循環である。  
 一、産業物の存在は、自然の自然循環の存在で解決  
 である。「環境問題」は、自然の自然循環の存在  
 である。このことが、このことが、このことが、  
 このことが大切に行うべきである。

題目フリーレポート

授業科目名	循環型社会論	提出日	2018年1月25日
学 科	経営社会 学科	学生番号	
学 年	2 年	氏 名	

題目：「持続可能社会と循環、豊か」

産業物問題の関心は議論は、この現象も  
 手不片断集約中心に議論されている。  
 しかし、産業物問題の背景には社会的背景も  
 あると思う。この産業物問題の背景は、社会的側面  
 として問題提起を再度要約していく。  
 産業物の根拠は「大量生産、大量消費」である。  
 人は、豊かに社会を自給する。大量生産、大量消費  
 を行い、この大量生産、大量消費を伴う生活  
 にはない。これを解決しようと、技術でやる。いろいろ  
 問題はある。そこで、豊かのため、ゼロエミッションの推進  
 である。これは、人間は唯一、産業物を生産する生物。人間は  
 豊かになるための人間社会を自然の物質循環の存在  
 である。産業物をゼロエミッションにする必要はない。  
 一、持続可能社会の存在が必要である。産業物の循環と  
 自然循環の自然循環の存在で解決していく。産業物を削減し、  
 自然の自然循環の存在によって、自然の自然循環の存在  
 である。地球規模で公平な世界中の生活すること  
 である。このことが持続可能社会と循環である。  
 一、産業物の存在は、自然の自然循環の存在で解決  
 である。「環境問題」は、自然の自然循環の存在  
 である。このことが、このことが、このことが、  
 このことが大切に行うべきである。

# ルーブリック

学習到達度を示す評価基準を、評価の観点と評価尺度からなる表として示したもの

## ルーブリック評価の特徴

- ★ 公平で、客観的な評価が可能
- ★ 学生が自らの位置を自覚できる
- ★ 学生がより高い次元を目指そうと意欲的に学ぶ
- ★ 迅速なフィードバックで学習が促進される
- ★ 教員の教える目標が明確になる
- ★ 身につけて欲しい知識や能力が学生に伝わる
- ★ 教員の教育技法が向上する
- ★ レポート、グループワーク、ポートフォリオ、プレゼンテーション等の評価に活用できる

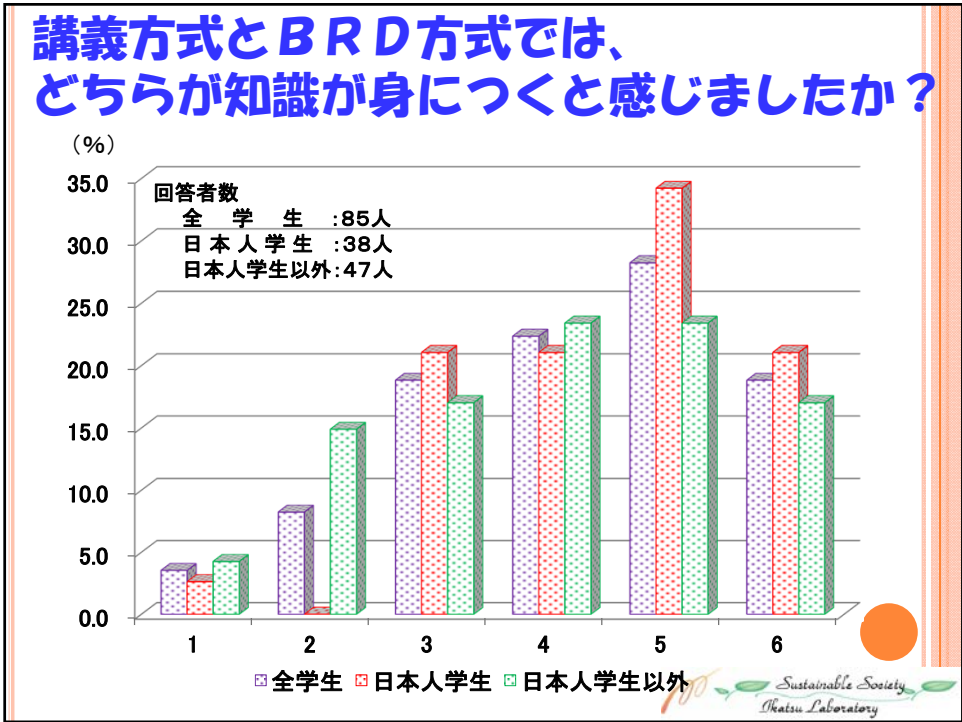
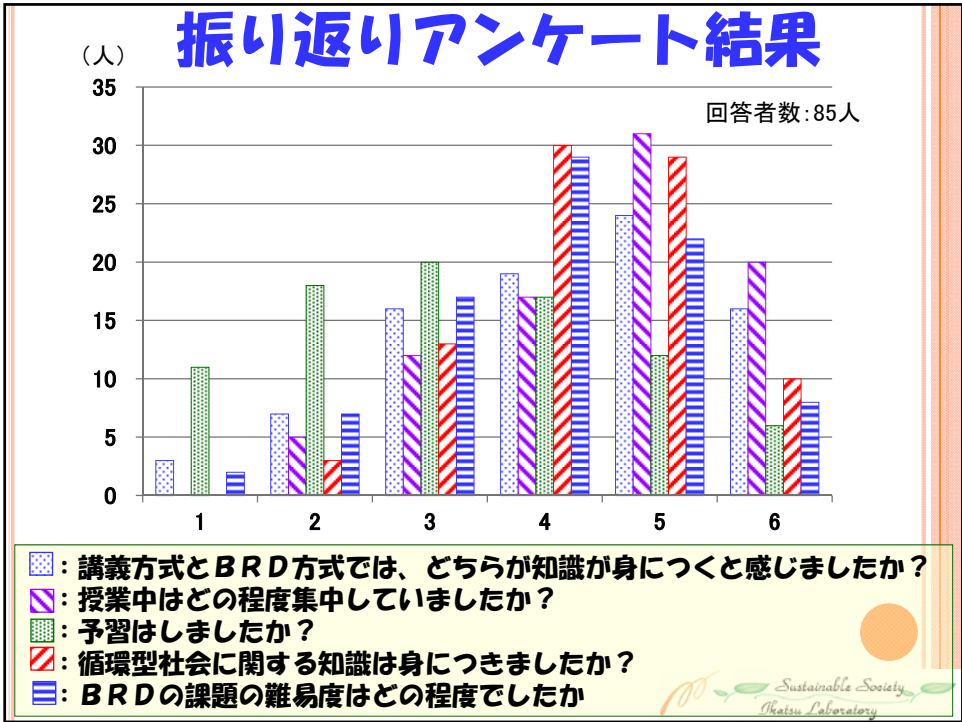
ダネル・スティーブンス、アントニア・レビ「大学教員のためのルーブリック評価入門」玉川大学出版部 (2014年)

# ルーブリック評価表

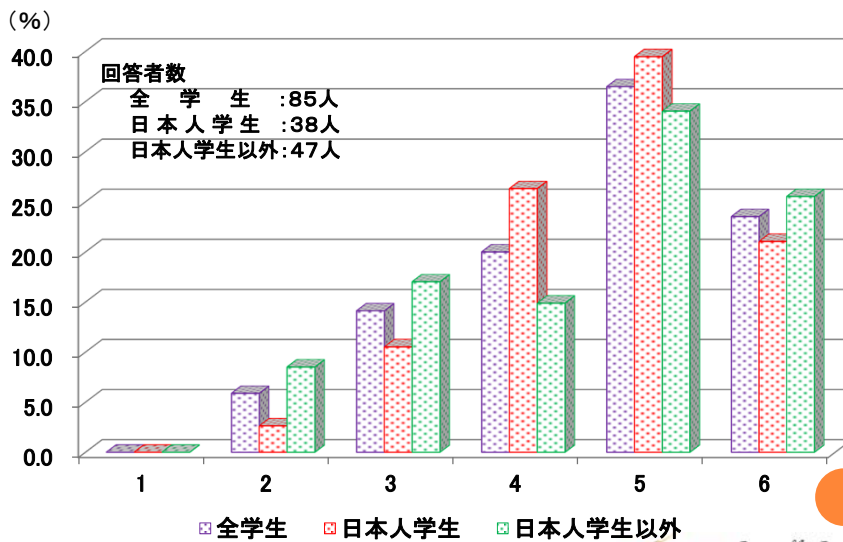
評価項目	期待通り (A)	飛躍進上 (B)	専攻修 (C)	評価
知識・理解	<input type="checkbox"/> 授業に出てきた用語の意味が理解できている。 <input type="checkbox"/> 資料の内容が理解できている。 <input type="checkbox"/> 教員の説明・解説が理解できている。	<input type="checkbox"/> 一部理解できていない用語がある。 <input type="checkbox"/> 資料の内容が一部理解できていない。 <input type="checkbox"/> 教員の説明・解説が一部理解できていない。	<input type="checkbox"/> 用語がほとんど理解できていない <input type="checkbox"/> 資料の内容がほとんど理解できていない。 <input type="checkbox"/> 教員の説明・解説がほとんど理解できていない。	
記載内容の適切性	<input type="checkbox"/> 課題が求めている問いに適切に答えている。 <input type="checkbox"/> 資料の内容が理解できている。内容に齟齬がない。 <input type="checkbox"/> 学習した内容に対して適切な考察が出来ている。	<input type="checkbox"/> 課題が求めている問いに答えているが、内容が不足している。 <input type="checkbox"/> 記載内容の一部に間違いがある。 <input type="checkbox"/> 学習した内容に対する考察が弱い。	<input type="checkbox"/> 課題が求めている問いに答えていない。 <input type="checkbox"/> 記載内容に大きな間違いがある。 <input type="checkbox"/> 学習した内容に対する考察が全く出来ていない。	
文章表現	<input type="checkbox"/> 論理的で分かりやすい文章表現となっている。 <input type="checkbox"/> 文法的に正しい文章となっている。 <input type="checkbox"/> 述べたいことが適切な言葉で記載されている。	<input type="checkbox"/> 論理的ではあるが文章が分かり難い表現となっている。 <input type="checkbox"/> 一部文法的に間違いがある文章となっている。 <input type="checkbox"/> 述べたいことが適切な言葉で記載されていない。	<input type="checkbox"/> 全体を通して論理がぼろぼろである。 <input type="checkbox"/> 文法的にも間違いが多く、文意が理解できない。 <input type="checkbox"/> 述べたいことが分からない。	
分量	<input type="checkbox"/> 文章が3/4ページ以上記入されている。	<input type="checkbox"/> 文章が2/4~3/4ページ記入されている。	<input type="checkbox"/> 文章の記入量が1/2ページ以下である。	
コメント				

Shatsu Laboratory

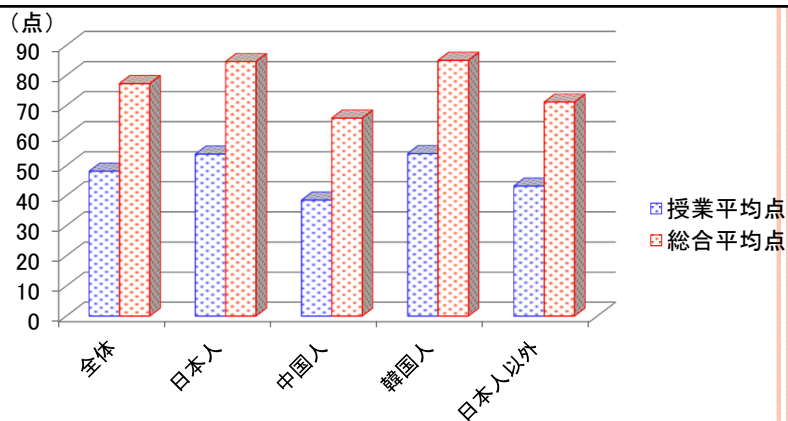




## 授業中はどの程度集中していましたか？



## 成績



国籍	人数	授業点			総合点		
		平均点	最高点	最低点	平均点	最高点	最低点
全学生	87	48.1	70	19	77.3	100	35
日本人	40	53.8	69	22	84.6	100	44
中国人	31	38.5	70	19	65.8	100	35
韓国人	13	54.0	66	36	85.0	100	63
日本人以外	47	43.2	70	19	71.1	100	35

Sustainable Society  
Phitsu Laboratory

## BRD授業参加学生の声

- ★ この授業を取って良かったと思う。循環型社会に関する知識が広がった。(インドネシア)
- ★ 知識を理解するには良い。自分には難しかった。(中国)
- ★ このやり方はとても身になった。レポートを自分で書いたものを読んだときも、なんでこんなことを書いたんだと思ったりにして、半年を通してとても成長したと思います。(日本)
- ★ 自分で調べて意見を言ったりするのはやっぱり限りがあります。ある程度先生がやって欲しいです。(韓国)
- ★ 先生の聞きたいことと、自分の話したいことが合わないときもあった。タイトルを分かりやすくしましょう。(韓国)
- ★ BRD方式は、学んだ知識を自分で整理してまとめることができるので、とても良い方法だと思う。(日本)
- ★ 講義を聞いてノートを取るだけよりも、BRD方式の方が集中できた。レポートに評価が付くのでやる気も起きた。(日本)

## まとめ

- ★ 集中度が高く、眠る学生はほとんどいなかった
- ★ 欠席するとレポート点が下がるので、欠席が少ない
- ★ 自分で新しいことを学ぶ学生もいた
- ★ 学生は、授業科目に関する知識だけでなく、学ぶ力をはじめ読む力、書く力を身につけることができる
- ★ テーマを示すことにより、授業の到達目標を明確にすることができる
- ★ ルーフリックの活用により、採点が客観的に行える
- ★ ルーフリックの活用により、学習意欲が向上する
- ★ ルーフリックの活用により、フィードバックが楽になる
- ★ ワークショップと違い教員の能力が影響しにくい
- ★ 適切なテーマ設定と資料選びが重要である
- ★ 学生に予習をさせることが課題である